



## 第14回 JAB特別セミナー

# 鳥類の就巢行動発現機構

神作宜男

(麻布大学獣医学部 動物応用科学科 教授)

2016年 2月 17日 (水) 15:30~17:00

広島大学生物生産学部 C301講義室

鳥類は繁殖行動として抱卵及び育雛行動を行う。抱卵により胚発生が始まり、種固有の日数により孵化する。孵化時の雛の羽毛の有無により大きく鳥類は早成性と晩成性に分けることができる。早成性鳥類の抱卵行動発現がプロラクチンにより誘起されることは1930年代に明らかにされた。不思議なことに、プロラクチン分泌の生理的制御因子の同定は1980年代後半であり、50年ほど要した。抱卵中にニワトリやシチメンチョウのプロラクチンの血中濃度は産卵時の10倍にも達するが、なぜこのような大きな濃度変化が可能であるかは未だ明らかにされていない。プロラクチン遺伝子発現とホルモン修飾の観点からここ20年において解明された点、未だ不明な点、今後の展望について我々の研究結果とあわせて紹介したい。

本講演は5研究科の共同  
セミナーの単位となります

問い合わせ先: 河上眞一

[skawak@hiroshima-u.ac.jp](mailto:skawak@hiroshima-u.ac.jp)

Tel/Fax: 082-424-3857